

わたしの旅 - 大和街道

一杉 秀樹

GoTo が健在だった頃、なんとなく大和平野に出掛けてみた。古くからの道をいろいろ歩いてみたかったのである。

桜井駅前のビジネスホテルに2泊し、竹内街道、葛城の道、山野辺の道など、3日で計60km歩いた。その折、葛城山の頂上から、東に大和平野、西に大阪平野が望まれて、改めてこの二つの地域が歴史のうえで深く繋がってきたことを理解した。

奈良と東国はどう繋がっていたのであろうか。大和街道というものが現在まで続いていることを知り、出掛けてみた。

大和街道は、伊賀に発して淀川に合流する木津川沿いに東西に延びている。川沿いに街道が開けるのは昔からの道理である。現在はその多くの部分が関西線（関西本線と習ったがいまや単線1両編成が走っているローカル赤字線）と重なっている。京都からJR奈良線に乗り、途中乗り換えて関西線の車中の人となった。木津川沿いに国道163号線と並行してノロノロ行くが景色は何ということない。だがそれはそれで旅である。

途中、現在は伊賀市の一部となっている旧島ヶ原村（駅は島ヶ原）で下車する。人気のない駅の前を大和街道（163号線）が走っているが、反対側、田んぼ、畑を抜ける道を登っていくとそこに昔からの島ヶ原村の集落がある。ここには観菩提寺（通称正月堂）という古い寺がある。751年の開山でこの^{しゅうじょうえ}修正会は、奈良東大寺二月堂のお水取り（^{しゅうにえ}修二会）に先駆けて行われ、こちらが発祥の地ともいわれている。

寺の一段上に細い道がくねって伸びており、標識には「和銅の道」と記されていた。東大寺の大仏に施された金は^{みちのく}陸奥からはるばるこの道を通って運ばれたに違いない。同行の知人は「あっ、田んぼに雉がいる」とそちらのほうが大発見のようであったが。

大和街道はその先亀山市の西、関宿で国道1号線に合流して終わる。この宿は江戸時代の宿場の姿をほぼそのまま残しているが、要は発展から取り残されただけとも言える。